

# 薬の流通・情報を支える医薬品卸

卸と言えば、問屋である。以前は、材木問屋や米問屋、テレビ番組水戸黄門でお馴染みのチリメン問屋など、さまざまな中間流通業者が存在した。卸問屋は、取り扱う物品の保管、小売業へ必要とされる量の提供を仕事とし、安定供給という面から重要な役割を担っていた。現在でも問屋自体は存在しているが、かつてほどの勢力はない。高度経済成長期に、米国型の大量消費スタイルが押し寄せて、安価な商品を大量販売する方式が主流になり、中間マージンをもって業とする問屋は安価を求める消費者から敬遠され、存在意義が薄れていった。

ではなぜ、医薬品卸の存在は必要とされているのか。それは、求められている役割や機能が、他の卸とは根本的に異なっているためだ。健康、生命に直結する商品の医薬品を扱うことは、製薬企業から病院、診療所、調剤薬局などへ、ただ配送するだけでは決して済まない。

物流業者であるから安定供給と迅速な配送は当然のこと、副作用の発生状況も含む「正しい情報」を確実に提供・収集しつつ、製造



ハンディターミナル（上）とPOS検品システムで、誤配送などのミスを防止する

ロットごとに医薬品の動きを追跡するトレーサビリティも行わなければならない義務まで負っている。医療用医薬品がある支店、営業所には国家資格者の薬剤師配置が絶対条件であり、情報を担当するのがMS（マーケティング・スペシャリスト）と呼ばれている卸の営業社員だ。

## 進む再編成 4大勢力に集約の方向

日本の医薬品卸は、今の中国のように以前は数千社あったとも言われていたが、現在では日本医薬品卸業連合会（薬卸連）の会員数は130社程度。しかも年々減少しているのが実態だ。これは、各地域で地元卸が活躍していた時代が過ぎ去り、全国をカバーすることで発生するスケールメリットが追い求められ

た結果である。

現在の日本では、メディセオ・パルタックホールディングス、スズケン、アルフレッサホールディングス、東邦薬品を中心とする4大勢力が、市場の大部分を占めている。社名を変更せずに拡大してきた企業もあるが、地域の有力卸が合併して新たな社名となった企業もある。卸業界ではほんの数年の間に再編が劇的に進み、薬卸連の会員による昨年の川柳では、「卸名 覚えたころに また変わり」が入選するほどだ。

これらメガ卸は、連結売上高2兆円達成が視野に入るほど拡大し、医薬品流通市場で激しいシェア争いを繰り広げている。それだけに他社との差別化を重要な戦略として、顧客支援システム、製薬、医療機器、物流コスト削減など独自の事業を展開している。

# 元氣創造

人生100年時代  
イキイキ、わくわく生きるために健康を増進しよう!

日本専門薬局同志会（日專同）とは、会員の学術知識・販売技術の向上及び薬局・薬店経営者としての倫理の向上に努め、以って医薬品を通じて健康指導を行うことにより、国民の健康に奉仕し、社会的貢献に寄与することを目的として設立された団体です。

日專同は健康指導を中心とした商品の品揃えで、ロイヤルカスタマーを創造します。

このような薬局・薬店をやってみよう！ 経営をしてみよう！  
という方に私達が「力」となり、「あとおし」をします。

### 日本専門薬局同志会

綱領

1. 私達は人間尊重を基本とし、人助けの精神に徹し、広く国民の健康に奉仕します。
1. 私達は人格と識見を高め、誠意をもって社会に貢献します。
1. 私達は常に真摯に研究を行い、適切な健康指導を行います。



● 滋養強壮 ● 虚弱体質

湧永製薬は日本専門薬局同志会を応援しています。

日本専門薬局同志会についてのお問い合わせは  
**TEL 03-3259-1008**  
日本専門薬局同志会事務局まで。



湧永製薬株式会社

大阪市淀川区宮原4丁目5-36

<http://www.wakunaga.co.jp>

## つらい! のどを殺菌・消毒!!



小林製薬株式会社 〒541-0045 大阪市中央区道修町4丁目3番6号 ●お客様相談室 ● TEL 06-6203-3625

## 「ナンバー1よりオンリー1」を目指して。

当社は、日本薬局方が制定された明治21年(1888年)に創業し、日本薬局方医薬品メーカーとしてスタートいたしました。以来117年、時代と共に高度化される国の製造開発、衛生基準に対応しながら、堅実経営を旨とし、幾度かの困難を乗り越え、局方医薬品のトップメーカーとして常に純良医薬品の開発と製造に努め、医療の発展に寄与し国民の健康と福祉に貢献してまいりました。

昭和50年代に入り殺菌消毒剤の開発に注力、新しい殺菌消毒剤ステリハイド®の開発と品揃え、情報収集ならびに医療機関・消費者への情報伝達サービスを基本に鋭意努力し、昭和年代の終りには一応の成果を挙げ業界において殺菌消毒剤の丸石製薬としてのイメージも定着いたしました。

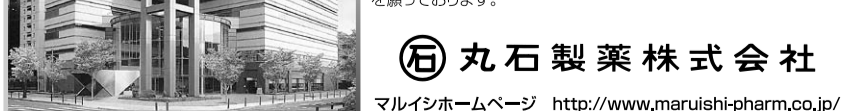
「ナンバー1よりオンリー1」を目指し、昭和60年代に入り全身吸入麻酔薬の開発に着手、平成2年自社開発による最も新しい麻酔薬セボフレン®を世界に先駆けて開発に成功・発売を開始、平成6年には海外導出を行い世界各国で発売されています。

更に、平成14年には、短時間作用型β1遮断剤プレビブロック®注、平成15年には、全身麻酔・鎮静剤の1%プロポフォル注「マルイシ」の許可を取得、麻酔科領域での製品充実にも努力しています。

平成16年5月にはこれからの時代を勝ち抜くために意思決定のスピードが速く、すばやく決断し実行できる組織の変革をめざし、会社の組織改革を断行しました。

今後もオリジナリティある新薬開発を目指し、海外企業との接触を深め、国内外の医療に貢献出来る特色ある企業として一層の努力をしております。

「信頼と合意」をモットーにいかなる環境の変化にも対応し得る基盤を形成し、社員の幸せと社業の発展を通じ社会に貢献できることを願っております。



丸石製薬株式会社

マルイシホームページ <http://www.maruishi-pharm.co.jp/>